



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！新青森



×



2022年5月20日(金)
第31号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



東北新幹線 通常ダイヤに 福島県沖地震から復旧

福島県沖地震の被害のため臨時ダイヤで運行していた東北新幹線は5月13日、通常ダイヤでの運転を再開しました。3月16日の地震発生から58日ぶりです。JR東日本が東北新幹線・盛岡開業40周年などに合わせて展開中の「新幹線 YEAR2022」キャンペーンにも弾みが付きます。

福島県沖地震はマグニチュード7.4の規模で最大震度6強を観測し、JR東日本の広報資料によると、東北新幹線は電柱や架線、土木設備、レールなど合計約1,000カ所が被害を受けました。特に白石蔵王（宮城県）付近では「やま



びこ223号」が脱線しましたが、乗員乗客に死傷者はありませんでした。

盛岡ー新青森間と東京ー那須塩原間は翌17日に、その他の区間も順次、運転を再開し、4月14日には残っていた福島ー仙台間が復旧して29日ぶりに全線で運転を再開しました。ただ、那須塩原ー一関間では復旧作業と安全確認に伴う徐行運転のため、臨時ダイヤでの運行となり、新青森ー東京間は4時間以上かかっています。

「新幹線 YEAR2022」キャンペーンの詳細は特設サイト（<https://www.jreast.co.jp/shinkansenyear2022/>）をご覧ください。

★写真左は復旧作業の様子を伝える

新青森駅のポスター

新青森駅に「りんごの鈴」

新青森駅2階の改札口前に、新たなシンボル「りんごの鈴」がお目見えしました。

3月下旬に東京駅で開かれたイベント「縄文×青森ミュージアム」PRのため、待ち合わせスポットとして親しまれている「銀の鈴」の隣に設置されていました。その役目を終え、今年3月末に引っ越してきました。



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく③1

活動3年ぶり本格再開へ 金魚ねぶた制作／近隣の歴史学ば

新青森駅などを拠点に活動する、青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」隊員たちが、3年ぶりに本格的な活動を始めています。2020～2021年度は、新型コロナウイルス感染症のため納得いぐ活動ができませんでした。生徒たちは、交流のある人たちに送る金魚ねぶたを制作したり、学校の近隣で研修したりしながら、「おもてなしの心」を高めています。

★新青森駅を通学に利用

青森西高校は県内で最も運動系の部活動が活発な高校の一つで、新青森駅から約700m西側に位置しています。多くの生徒が通学に同駅を利用しています。

青西おもてなし隊は2010年12月の東北新幹線全線開通・新青森駅開業を契機に誕生し、青森ねぶた祭や三内丸



山遺跡でのボランティア活動、青森港のクルーズ船客のガイド、新青森駅でのおもてなしなど、多彩な活動を展開してきました。2019年度には、青森県の「おもてなしアワード」で最高賞の県知事賞を受賞し、おもてなし隊を目標に進学する生徒も増えているといえます。

しかし、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染症拡大に伴って観光客が激減し、生徒たちの活躍の舞台となった青森ねぶた祭、クルーズ船の青森港寄港やJR東日本の豪華列車運行が軒並み中止となりました。

★長万部高校とも交流

それでも、生徒たちは地道に活動を重ね、台湾の高校生とのオンライン交流、お礼状が届いた県内外の人々に感謝の気



持ちを込めて金魚ねぶたを送るといった活動を継続してきました。2021年度は、北海道新幹線の長万部駅のデザインに携わる長万部高校生と交流したり、新青森駅を起点としたJR東日本の「駅からハイキング」を企画するといった活動を通じて、先輩のバトンを受け継ぐと奮闘してきました。

新学期スタート後、生徒たちは贈呈用の金魚ねぶたの作成を再開しました。4月17日には、初めて開催された「あおもり桜マラソン」を応援。同25日には、顧問の清野耕司教諭の引率で、「駅からハイキング」のコースになった新青森駅近くの「石神社」を訪れて研修するなど、本格的な活動を再開させつつあります。

★自主的ボランティアに参加

3年の大中悠菜さんは「おもてなし隊と茶道や情報処理の部活動を並行させています。コロナ前の活動は分かりませんが、三内丸山遺跡では自主的ボランティア活動に携わるなど、自分から何かをしようとする習慣が身につきました。誰かに私たちがの気持が届いてくれば」と意気込みを語ります。隊長の太田美穂さん（3年）は「みんなで心を合わせて頑張りたい」と話していました。

